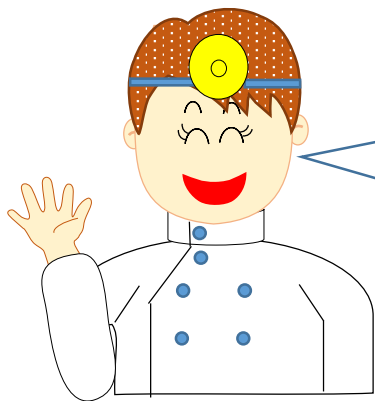




子どもに多い耳の病気



子どもに最も多い感染症の一つに、中耳炎があります。

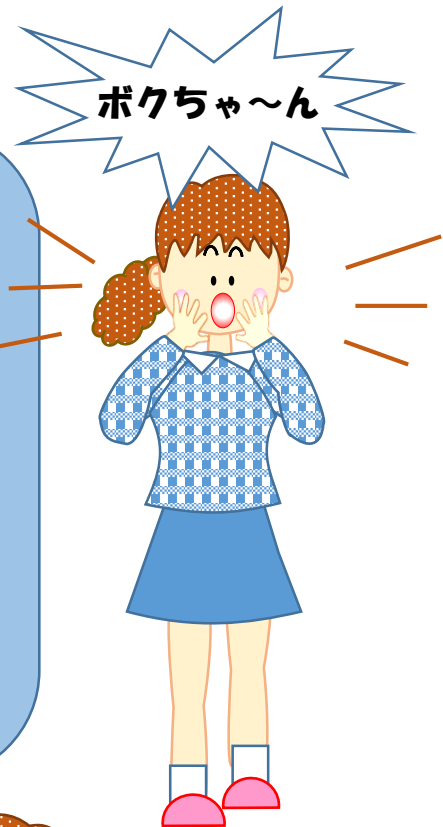
中耳炎には、急性中耳炎としん出性中耳炎があり、症状の違いや治療法をお知らせします。

急性中耳炎は、 のど鼻かぜに伴って、鼻の奥と耳をつなぐ耳管というくだを伝わって、ウイルスや細菌がこまくの奥に入ることが原因で起こります。

一方・・・・・・・・

しん出性中耳炎は、 急性中耳炎の後にこまくの奥にたまった液が抜けずに、そのまま残ってしまい慢性化したものです。

急性中耳炎に長い間あるいは繰り返しかかると、中耳の中の骨の発育が悪くなり（骨は3～4歳ごろまでおうせいに発育します）しん出性中耳炎が治りにくくなります。また、耳管が悪くなる原因として、慢性の鼻やのどの炎症があげられますので、鼻かぜを早い段階で治すことが、しん出性中耳炎の予防になります。



急性中耳炎の症状は、痛みが強く、発熱を伴うなど症状がはっきりしています。

それに対して・・・

しん出性中耳炎は、痛みや耳だれなどはっきりした症状がありません。聞こえが悪くなりますが、程度が軽いと子どもさん方は自分で症状を訴えてくれませんし、注意して観察しないと周りにもわかりません。

呼びかけても振り返らない、テレビの音が大きい、言葉の発育がおそいなどで気づかれることも少なくありません。



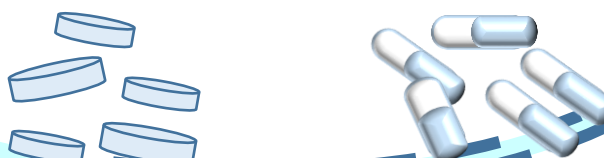
急性中耳炎の治療は、痛み止めや抗菌薬などのお薬と、場合によってはこまくを切って痛みや熱を和らげることもあります。しん出性中耳炎の治療は、中耳に溜まっている液を、のどへ排泄を促すため、こまくに空気穴を開け、そこに小さなチューブを入れる方法があります。

意外に知られていないことですが、早くから集団保育を受けているお子さんは、鼻かぜにかかりやすく、しん出性中耳炎が治りにくい傾向があります。病気に対する抵抗力が最も弱いのは生後 6 か月ごろで、その後、次第に免疫力が高くなると言われています。しん出性中耳炎や繰り返す急性中耳炎がどうしても治らないお子さんは、保育園を一定期間お休みして、自宅で過ごされる方がよいこともあります。

おくすり

ほけんたろう 様

〇〇薬局



ほけんだよりは、くれ子育てねっとの子育て支援サービスでもご覧になることができます。

URL <http://www.kure-kosodate.com/>